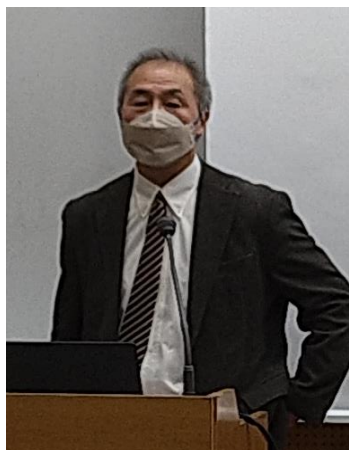


# 令和5年度 日本小学生バレーボール連盟 コンプライアンス委員長会議の開催

日本小学生バレーボール連盟  
広報委員会

日時：令和6年3月10日（日）13:00～16:00  
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター



大内理事長

## 大内理事長より招集挨拶とコンプライアンス委員会の重要性

バレーボールを盛り上げるため、一緒に考える情報共有の会議としたい。  
工藤会長からも重要な会議を有意義に進めてほしいとの伝言。

## 八木田コンプライアンス委員長から現状について説明

小連HPや事務局へ通報が入るケース、多岐に  
渡り事例が湧き出てくるのが現状。  
子供が、「ど真ん中」なのに被害者になって  
いる傾向（早期行動、被害者救済がテーマ）  
共通理解、意識連携を達成しよう。



八木田委員長

## ◎日小連 共育ブック（各、都道府県に3部の配付）

## ◎アンケートによる意識調査

指導の実態に係る全国アンケート集計の説明

## 鈴木委員より、コンプライアンス規定・処分基準の報告



鈴木委員

コンプライアンス規定は完成ではないが、JVAの通達を含め  
小学生連盟に適して構成している。

日小連HPにコンプライアンス規定と処分基準を掲載。  
法令等を定めて子供・指導者・保護者・チームを守る組織。  
都道府県でコンプライアンス規定を作成しているケース  
（10都道府県程度）を確認

コンプライアンス事案に対しての対応、規定をベースに  
上部組織・日小連との共有、相談で対応する事が大事。

## 後藤委員より、コンプライアンス事案の傾向と対応の報告

スライドPowerPointで説明

通報事例：被害者（保護者）54件、第三者12件の発生。

保護者の事案に対する処分が規定に無いのが現状。

選手に関わる要因（特殊事例要因）指導者も勉強が必要になっている。

### 対応の流れの確認、JVAが受ける→各団体へ任せる（都道府県小連で調査）

必ず、時系列で記録を取ることが重要、速報は調査計画の立案と  
同時に提出する事が大事。

任意団体と法人の違い（調査を実施する事は同様）

匿名の場合の対応方法⇒相手の否定より聞き取る姿勢が大事。



後藤委員

調査に協力する義務の設定と判断について、JVAの規定に基づき対応。  
活動停止の判断についての難しさと対応について疑問、弁護士への相談対応への導き。  
保護者（指導者への擁護派と反対派）への対応。

中立の立場で事実を掴む事、全保護者対象のアンケート方式も対応すると良い。



阿部委員

### 阿部委員より、アンケート内容の説明

- ・ スライドPowerPointで説明
- 技術指導と生活指導・体罰・保護者との関係。
- アンケート結果の配布
- コンプライアンス調査・報告書の事例による要点の紹介（4件程度の事例）

### 竹村副委員長による共育ブック追記版の活用について説明

未然防止の取組を重要としている

※前回の共育ブックから3年経過しR5追記版製作  
いつでもどこでも笑顔、子供たちへのアンケートでも試合に  
勝つことより練習が楽しいとの意見が多い。



竹村副委員長



### チーム、子供たちを増やせた事例紹介（高知県・指導者）

子どもたちの変化、成長を指導者内で共有している。  
チーム方針を保護者との共有の場を設けている。  
保護者への感謝を常に考えている。

### ●体罰は教育現場から生まれた言葉、暴力・暴言で統一しよう（体罰と暴力の識別）

#### コンプライアンス委員会の思い！！

被害者救済を第一に考えて！  
発生後の対応ではなく未然防止を！  
指導者、保護者への研修実施を！



コンプライアンス委員長会議